

(3) ゾーンの内容

4つに区分わけしたゾーンに関連する環境保全の整備目標を、表5-7に示すように設定します。

表5-7 ゾーン区分の内容

環境保全の基本方針	自然環境				社会環境				生産環境						
	農村を取りまく自然環境と生態系の保全				活力ある農村環境整備の推進				環境に配慮した新しい農業の推進						
環境保全の整備目標	・四季折々の豊かな自然に適応した農村環境づくりの推進と美しい農村景観の保全	・資源の確保・保全と活用	・農業の源である「水」、「土」、「雪」などの地域の環境保全と地域防災力の強化	・農村に住む動植物の生態系の保全	・若者の農業への定着を促進する住環境や農業生産環境の整備	・農業や農村に伝わる技術、文化や祭りの継承による地域の活性化	・農村の活性化	・都市住民と農業者の交流促進による	・中山間地での害虫被害の把握と対策の推進	・農業生産コストの低減	・農業基盤の整備による農地の保全と農業への参画	・担い手不足解消のための多様な農業者による市場の拡大	・質の高い農産物の生産やブランド化による	・地産地消の推進などによる食の安全の確保	・鳥獣被害対策による農作物や農地の確保
ゾーン区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	
平地農業ゾーン															
里山・中山間農業ゾーン									○						
棚田・山間農業ゾーン										○					
自然環境保全ゾーン															

印：各ゾーンが属するエリアに関連する環境保全の整備目標
 印：各ゾーンの特に重点的に取り組む環境保全の整備目標

【各ゾーンが属するエリアの名称】

- 平地農業ゾーン : のうち・利用活性化エリア
- 里山・中山間農業ゾーン : しぜん・歴史文化共存エリア
- 棚田・山間農業ゾーン : やすらぎ・里山活用エリア
- 自然環境保全ゾーン : みどり・水資源活用エリア

平地農業ゾーン

【対象とする地域】

鵜川、鯖石川水系の下流域に広がる水田地帯であり、生態系の保全に配慮しながら高生産性営農を目指す地域です。

【平地農業ゾーンの取り組み】

適切な農地の保全・管理と、田んぼダムなどの取り組みにより、地域防災力の強化を図っていきます。

大区画ほ場整備の推進などにより、環境保全型農業に配慮した高生産性ほ場の拡大・保全を図っていきます。

基盤整備にあたっては、生き物の生態系に配慮して行います。

「越路早生」などの柏崎ブランド米の確立と販売網の拡大を図っていきます。

里山・中山間農業ゾーン

【対象とする地域】

鵜川、鯖石川、別山川水系の上・中流域に広がる水田地帯であり、河川や森林と連携した環境保全を目指す地域です。

【里山・中山間農業ゾーンの取り組み】

田んぼの学校などの取り組みにより、地域の特性を活かした地域コミュニティの活性化を図っていきます。

「綾子舞現地公開」などにより、歴史・文化等の多様な農村資源の維持・管理を図っていきます。

地域の特性に合わせた適切なほ場整備の推進により、不作付農地の解消を図っていきます。

基盤整備にあたっては、景観や生き物の生態系に配慮して行います。

中山間地での害虫被害の把握や被害軽減に向けた環境づくりを図ります。

棚田・山間農業ゾーン

【対象とする地域】

鯖石川上流域に広がる水田地帯であり、里山の豊かな景観が残る山間地の農地を保全するとともに豊かな自然景観の維持を目指す地域です。

【棚田・山間農業ゾーンの取り組み】

棚田サポーターなどの活動により、棚田の維持・保全を行い、里山の景観の保全に取り組んでいきます。

里山・棚田を維持・保全することにより、土砂崩壊防止機能などの中山間地域が持つ多面的機能を発揮し、地域防災力の強化を図っていきます。

「かやぶきの里」での田舎体験などによる都市と農村の交流と、農産物の流通の拡大を図っていきます。

電気柵によるイノシシ被害対策の取り組みを推進するとともに、効果的な捕獲技術や被害防除技術の開発・普及を図っていきます。

山間地での害虫被害の把握や被害軽減に向けた環境づくりを図ります。

自然環境保全ゾーン

【対象とする地域】

米山山麓の自然山間地において、限られた農地や自然のままの環境の保全を目指す地域です。

【自然環境保全ゾーンにおける取り組み】

谷根川さけの森づくり活動などにより、ブナ林などの森林の保全と河川の適切な維持・管理を図っていきます。

電気柵によるイノシシ被害対策などを効果的に行い、動植物との共生と豊かな自然との調和を図っていきます。